

第176号

ほほえみの会

2012.6.10

日本人の死亡原因で最も多いがんについて、今後5年間の対策の柱として働く世代や子どものがん対策に重点的に取り組むことが初めて盛り込まれた基本計画が8日の閣議で決定されました。

全体の目標としては、年間およそ35万人に上る「がんの死亡者の減少」と「すべてのがん患者と家族の苦痛の軽減」それに「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」を挙げています。

さらに、重点的に取り組む課題のなかに子どもが亡くなる病気で最も多い小児がんの対策として、5年以内に専門の医療スタッフによる適切な治療が受けられる拠点病院を整備することが初めて盛り込まれました。

小宮山厚生労働大臣は、閣議のあとの記者会見で、「今後のがん対策は新しい基本計画を基に実効性のある取り組みを強力に推進していきたい」と話しました。(NHKニュース抜粋)

<第16回小児がん親の会連絡会>

2012.5.26 幹事 京大病院小児科親の会たんぽぽの会

小児がん親の会連絡会が京都大学附属病院で開かれ、全国15の病院の親の会から40人余りが参加しました。

京都大学にはips細胞研究所があり、見学と講演がありました。

ips細胞とは人工多能性細胞で、人の皮膚細胞を採って遺伝子やたんぱく質の因子を加えて培養することで無限に増殖する。増殖したips細胞は心臓筋肉や臓器、骨、血液、神経などさまざまな細胞に分化できる。

再生医療や病気の原因解明、さらには新薬の開発に大いに期待される。この世紀の発見は6年前で、ノーベル賞候補になっているということです。

2年後に臨床化を目指しているようですが、一方で増殖の速さががん細胞と似ていることから、がん化しないかなど問題もあるということです。

その後のグループ討議では、情報化社会といえども人と人が対面して話をすることは重要で、親の会の存続は大事だと言う意見がありました。一方で、会への若い方の参加が少ないとか、活動と仕事の両立が出来ない、病棟の様子が分からない、会の継続が困難といった共通する話題も多く出されました。

<第203回 5/12 ほほえみの会>

6名の参加でした。

- ▽ 甲状腺がん、高校へ入学した。高校でどこまで病気の話をしていいか悩む。本人は日常生活に問題はないが、手術の傷跡が気になる様子。母親は病気を見逃した後悔がまだにある。
- ▽ 4歳で急性リンパ性白血病を発病したが、今は大学4年生で大学院を目指して勉強をしている。小さい頃からの闘病で勉強を余りしてこなかったのが今一生懸命勉強をしているが、体力がない。県立総合病院への紹介状を書いてもらったが中々行けない。

<第204回 6/10 ほほえみの会>

堀越医師、鈴木医師のほか4名が参加しました。

病気でお子さんを亡くした方が夫と離婚、栄養士として再出発して、再婚してお子さんを儲けたと言う話も出ました。病気は不幸のどん底だと思われがちだが、幸せのための通過点ではないかと言った話が出ました。

▽ 来月開催の総会について話し合いをしました。

次回 は7月8日(日) 11時から 総会です

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>